

「広報に  
マニュアルはない」  
記者に対して  
類型的対応は  
嫌われる



社会部は一見の客。そんなマニュアルも……

「え、私どもの担当になられたのですか」

驚きというより、悲痛な表情だ。広報部長氏に着任のあいさつをして、このような表情をされたのは後にも先にも、これきりだ。

86年、当時の東京商工会議所記者クラブに配属され、デパートやスーパーなど流通業を担当することになった。Aデパートにあいさつに行ったところ、顔なじみの広報部長氏が出てきた。

私は85年5月まで社会部で警視庁クラブにいた。そこで、そのデパートが、総会屋に資金を供与し、社員が逮捕されるという不祥事を起こした。それまでの商法では、資金をもらって、株主総会を仕切った総会屋だけが逮捕されたが、その直前の商法改正で、資金を渡した会社社員も同罪となり、初めての検挙だった。

先行していた読売新聞は、Aデパートを徹底取材。直接、社長以下、首脳陣にも取材を敢行した。もちろん、広報部長氏にとっては、悪夢のような期間だったであろう。